

京都大学医学部附属病院脳神経外科  
先生

2006年2月

## 未破裂脳動脈瘤患者の意思決定支援ツール に関するインタビュー調査のお願い

拝啓

厳寒の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私共、循環器疾患等総合研究事業「未破裂脳動脈瘤の要因、治療法選択におけるリスク・コミュニケーションに関する研究」班 U-SHARE (Ubiquitously - Support and Heal Aneurysmal patients with Risk Communication and Empowerment)(分担研究者: 福原俊一)は、未破裂脳動脈瘤をもつ患者の意思決定を支援するための研究を行っております。

この度本研究班は、患者向け「意思決定支援ツール」のプロトタイプを作成し、先生方に本ツールの評価を行って頂く研究を実施することとなりました。本研究では「意思決定支援ツール」のプロトタイプを先生方にお使い頂き、内容やユーザビリティ、患者の意思決定における有用性等に関して、ご意見を伺いたいと考えております。何卒本研究の主旨にご理解賜り、ご協力頂ければ幸いです。

本研究につきましてご不明の点がありましたら、下記までお問い合わせください。何卒ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

敬具

厚生労働科学研究費補助金循環器疾患等総合研究事業  
「未破裂脳動脈瘤の要因、治療法選択におけるリスク・コミュニケーションに関する研究」  
主任研究者 橋本信夫

【本研究に関する問い合わせ】 酒井未知 michisakai@pbh.med.kyoto-u.ac.jp  
〒605-8501 京都市左京区吉田近衛町 京都大学大学院医学研究科  
社会健康医学系専攻 医療疫学分野  
TEL : 075-753-4646, FAX : 075-753-4644

## 「未破裂脳動脈瘤の意思決定支援ツール試作版の評価」

### 研究参加へのお願い

本邦では未破裂脳動脈瘤の患者の意思決定をどのようにサポートしていけばよいかについては、十分に研究されておられません。

そこでわたしたちは、未破裂脳動脈瘤をもつ患者さまとご家族の方の意思決定に役立てて頂くために、「意思決定支援ツール」の試作版を作成致しました。

この調査では、先生方に「意思決定支援ツール」の試作版をお使い頂き、内容や使いやすさ、患者の意思決定における有用性についてご意見を伺います。

先生方のご意見は、よりよいツールを作るための貴重な資料になることと存じます。ぜひともご協力いただきますようお願い申し上げます。

- ✓ この調査は本研究の研究者が行い、所要時間は約 30 分かかる予定です。
- ✓ この調査では、始めに「意思決定支援ツール」を使って頂き、その後、質問紙調査と簡単なインタビューを行います。
- ✓ 調査は無記名で行われます。
- ✓ 質問紙調査とインタビューでは、「意思決定支援ツール」の 1)内容、2)使いやすさについて、あなたのご意見をお伺いします。
- ✓ 参加するかどうかは、あなたの自由な意思で決めてください。参加を希望されない方はご参加いただかなくても結構です。また研究へのご参加を撤回したり、回答したくない質問へのご回答や情報の提供を拒否したり、調査を中止することはいつでも可能です。それによってあなたに不利益は一切ありません。
- ✓ この調査に参加していただいたみなさま方のプライバシーは厳重に保護されます。ご回答頂いた質問紙は厳重に保管され、個人が特定できないかたちで報告書や研究論文にまとめます。この調査で得た情報を本研究以外の目的で使うことはありません。また研究終了後、ご回答頂いた質問紙は全て破棄します。
- ✓ この調査についてわからないことがありましたら、いつでもインタビュー担当者に質問してください。もし、インタビュー担当者に尋ねにくいことがありましたら、下記までお問い合わせください。

以上、本研究の目的と主旨をご理解いただき、研究に参加していただければ幸いです。

研究代表者 京都大学医学研究科医療疫学分野 福原俊一

電話:075(753)4646

ファックス:075(753)4644

Eメール: [michisakai@pbh.med.kyoto-u.ac.jp](mailto:michisakai@pbh.med.kyoto-u.ac.jp)

## 研究参加についての同意書

私は、以下の項目について担当研究者から十分な説明を受け、私のプライバシーが厳重に守られるかたちで研究が行われることを理解しました。「未破裂脳動脈瘤の意思決定支援ツール試作版の評価」の研究に参加することに、私の自由な意志に基づいて同意します。

説明を受けた項目：

- 調査の目的・方法
- 参加の意思がなくなったときには、調査の途中であっても中断してよいこと
- 質問紙調査とインタビューで質問される内容
- プライバシーは保護されること
- 謝礼
- 問い合わせ先

同意年月日：平成 年 月 日

氏名：\_\_\_\_\_

インタビュー担当者名：\_\_\_\_\_

1. 意思決定支援ツールの評価（患者用自記式質問紙）

未破裂脳動脈瘤についての「小説」、情報ページ「どんな病気なの？」の感想をお伺いします。あなたのご意見にあてはまるものに1つ○をつけて下さい。		まったくそう思わない	あまりそう思わない	どちらともいえない	まあそう思う	とてもそう思う
1.	未破裂脳動脈瘤についての「小説」の文字の大きさは見やすかった。	1	2	3	4	5
2.	未破裂脳動脈瘤についての「小説」の文字のデザインは見やすかった。	1	2	3	4	5
3.	未破裂脳動脈瘤についての「小説」のレイアウト(配置)は見やすかった。	1	2	3	4	5
4.	未破裂脳動脈瘤についての「小説」の操作方法是分かりやすかった。	1	2	3	4	5
5.	未破裂脳動脈瘤についての「小説」は、治療方針を考えると役に立つと思う。	1	2	3	4	5
6.	未破裂脳動脈瘤についての情報ページ「どんな病気なの？」の文字の大きさは見やすかった。	1	2	3	4	5
7.	未破裂脳動脈瘤についての情報ページ「どんな病気なの？」の文字のデザインは見やすかった。	1	2	3	4	5
8.	未破裂脳動脈瘤についての情報ページ「どんな病気なの？」のレイアウト(配置)は見やすかった。	1	2	3	4	5
9.	未破裂脳動脈瘤についての情報ページ「どんな病気なの？」の操作方法是分かりやすかった。	1	2	3	4	5
10.	①脳動脈瘤はどうやってできたのかを知りたいと思う	1	2	3	4	5
11.	②脳動脈瘤はこれからどうなるのかを知りたいと思う	1	2	3	4	5
12.	③どんなことに気をつけて生活したらいいのかを知りたいと思う	1	2	3	4	5
13.	④脳動脈瘤に対してどんなの選択肢があるのかを知りたいと思う	1	2	3	4	5
14.	⑤手術の手順を詳しく知りたいと思う	1	2	3	4	5
15.	⑥治療の危険性を知りたいと思う	1	2	3	4	5

16.	⑦治療にかかる費用を知りたいと思う	1	2	3	4	5
17.	⑧治療した後の入院生活や退院後の生活がどうなるのかを知りたいと思う	1	2	3	4	5
18.	⑨脳動脈瘤がまた新しくできる可能性について知りたいと思う	1	2	3	4	5
19.	上記の①から⑨の情報があれば、知りたい情報を全部知ることができると思う	1	2	3	4	5
20.	上記の①から⑨の情報があれば、治療方針を考えるときに役立つと思う。	1	2	3	4	5
<p>効用値測定ツール「効用値を求めてみよう」の感想をお伺いします。あなたのご意見にあてはまるものに1つ○をつけて下さい。</p>		まったく思わない	あまり思わない	どちらともいえない	まあそう思う	とてもそう思う
1.	効用値測定ツール「効用値を求めてみよう」の文字の大きさは見やすかった。	1	2	3	4	5
2.	効用値測定ツール「効用値を求めてみよう」の文字のデザインは見やすかった。	1	2	3	4	5
3.	効用値測定ツール「効用値を求めてみよう」のレイアウト(配置)は見やすかった。	1	2	3	4	5
4.	効用値測定ツール「効用値を求めてみよう」の内容は分かりやすかった。	1	2	3	4	5
5.	効用値の測定は自分ひとりでも簡単に行なえた。	1	2	3	4	5
6.	効用値を測定することは、治療方針を考えるときに役立つと思う。	1	2	3	4	5
<p>&lt;全体的な評価&gt; 意思決定支援ツールの全体的な感想をお伺いします。あなたのご意見にあてはまるものに1つ○をつけて下さい。</p>		まったく思わない	あまり思わない	どちらともいえない	まあそう思う	とてもそう思う

1.	意思決定支援ツールの全体的な構成は分かりやすかった。	1	2	3	4	5
2.	意思決定支援ツールの全体的な内容は適切だった。	1	2	3	4	5
3.	意思決定支援ツールは治療方針を考えるときに役立つと思う。	1	2	3	4	5

ご協力ありがとうございました。回答が終わりましたら、この用紙を封筒に入れて、インタビュー担当者にお渡し下さい。

<自由回答> (インタビュー質問項目)

1	<u>未破裂脳動脈瘤についての「小説」</u> で追加、修正して欲しいこと
2	<u>未破裂脳動脈瘤についての情報ページ「どんな病気なの？」</u> で追加、修正して欲しいこと
3	<u>効用値測定ツール「効用値を求めてみよう」</u> で追加、修正して欲しいこと
5	意思決定支援ツール全体で追加、修正して欲しいこと
6	その他の感想



## 2. 研究参加者の背景情報

あなたご自身のことについてお伺いします。以下の項目について、あてはまるものに○をつけて下さい。回答したくない質問がありましたら、お答え頂かなくても結構です。回答が終わりましたら、この用紙を封筒に入れて、インタビュー担当者にお渡し下さい。

1	性別	1) 男	2) 女				
2	年齢	歳					
3	最終学歴	1) 中学校	2) 高校	3) 専門学 校	4) 短大・ 高専	5) 大学	6) 大学院
4	就業状況	1) フルタイム	2) パート タイム	3) 仕事はしていない			
5	世帯状況	1) 家族と同居	2) 1人暮らし	3) その他			
6	現段階の 治療方針	1) コイルで詰 める治療	2) クリッ プで挟む 治療	3) 経過をみる		4) 未定	

ご協力ありがとうございました。

3. 患者の臨床背景（本調査用紙は患者の主治医に記入を依頼する）

本日は大変お忙しい中本研究にご協力頂き、ありがとうございます。インタビューにご協力頂いた患者さんの背景情報について、以下にご記入をよろしくお願い致します。

1	患者ID	(インタビュアー記入)				
2	脳動脈瘤の部位	1)Anterior	2)Posterior	3)IC cavernous		
3	脳動脈瘤の最大径	mm				
4	くも膜下出血の既往	1)あり	2)なし			
5	脳動脈瘤発見時期	年 月				
6	発見理由	1)脳ドック	2)頭痛、めまい	3)症候性	4)くも膜下出血	5)その他
7	推奨される治療方針	1)血管内	2)開頭手術	3)経過観察		

ご協力ありがとうございました。

2. 意思決定支援ツールの評価（医師用自記式質問紙）

未破裂脳動脈瘤についての「小説」、情報ページ「どんな病気なの？」の感想をお伺いします。あなたのご意見にあてはまるものに1つ○をつけて下さい。		まったくそう思わない	あまりそう思わない	どちらともいえない	まあそう思う	とてもそう思う
1.	未破裂脳動脈瘤についての「小説」の文字の大きさは見やすかった。	1	2	3	4	5
2.	未破裂脳動脈瘤についての「小説」の文字のデザインは見やすかった。	1	2	3	4	5
3.	未破裂脳動脈瘤についての「小説」のレイアウト(配置)は見やすかった。	1	2	3	4	5
4.	未破裂脳動脈瘤についての「小説」の操作方法是分かりやすかった。	1	2	3	4	5
5.	未破裂脳動脈瘤についての「小説」は、患者が治療方針を考えるとときに役立つと思う。	1	2	3	4	5
6.	未破裂脳動脈瘤についての情報ページ「どんな病気なの？」の文字の大きさは見やすかった。	1	2	3	4	5
7.	未破裂脳動脈瘤についての情報ページ「どんな病気なの？」の文字のデザインは見やすかった。	1	2	3	4	5
8.	未破裂脳動脈瘤についての情報ページ「どんな病気なの？」のレイアウト(配置)は見やすかった。	1	2	3	4	5
9.	未破裂脳動脈瘤についての情報ページ「どんな病気なの？」の操作方法是分かりやすかった。	1	2	3	4	5
10.	患者は①脳動脈瘤はどうやってできたのかを知りたいと考えていると思う	1	2	3	4	5
11.	患者は②脳動脈瘤はこれからどうなるのかを知りたいと考えていると思う	1	2	3	4	5
12.	患者は③どんなことに気をつけて生活したらいいのかを知りたいと考えていると思う	1	2	3	4	5
13.	患者は④脳動脈瘤に対してどんなの選択肢があるのかを知りたいと考えていると思う	1	2	3	4	5
14.	患者は⑤手術の手順を詳しく知りたいと考えていると思う	1	2	3	4	5
15.	患者は⑥治療の危険性を知りたいと考えていると思う	1	2	3	4	5

16.	患者は⑦治療にかかる費用を知りたいと考えていると思う	1	2	3	4	5
17.	患者は⑧治療した後の入院生活や退院後の生活がどうなるのかを知りたいと考えていると思う	1	2	3	4	5
18.	患者は⑨脳動脈瘤がまた新しくできる可能性について知りたいと考えていると思う	1	2	3	4	5
19.	上記の①から⑨の情報があれば、患者は、知りたい情報を全部知ることができると思う	1	2	3	4	5
20.	上記の①から⑨の情報があれば、患者が治療方針を考えるときに役立つと思う。	1	2	3	4	5
<p>効用値測定ツール「効用値を求めてみよう」の感想をお伺いします。あなたのご意見にあてはまるものに1つ○をつけて下さい。</p>		まったく思わない	あまり思わない	どちらともいえない	まあそう思う	とてもそう思う
1.	効用値測定ツール「効用値を求めてみよう」の文字の大きさは見やすかった。	1	2	3	4	5
2.	効用値測定ツール「効用値を求めてみよう」の文字のデザインは見やすかった。	1	2	3	4	5
3.	効用値測定ツール「効用値を求めてみよう」のレイアウト(配置)は見やすかった。	1	2	3	4	5
4.	効用値測定ツール「効用値を求めてみよう」の内容は分かりやすかった。	1	2	3	4	5
5.	効用値の測定は自分ひとりでも簡単に行なえた。	1	2	3	4	5
6.	効用値を測定することは、患者が治療方針を考えるときに役立つと思う。	1	2	3	4	5
<p>&lt;全体的な評価&gt; 意思決定支援ツールの全体的な感想をお伺いします。あなたのご意見にあてはまるものに1つ○をつけて下さい。</p>		まったく思わない	あまり思わない	どちらともいえない	まあそう思う	とてもそう思う

1.	意思決定支援ツールの全体的な構成は分かりやすかった。	1	2	3	4	5
2.	意思決定支援ツールの全体的な内容は適切だった。	1	2	3	4	5
3.	意思決定支援ツールは、患者が治療方針を考えると役に立つと思う。	1	2	3	4	5

ご協力ありがとうございました。回答が終わりましたら、この用紙を封筒に入れて、インタビュー担当者にお渡し下さい。

<自由回答> (インタビュー質問項目)

1	<u>未破裂脳動脈瘤についての「小説」</u> で追加、修正して欲しいこと
2	<u>未破裂脳動脈瘤についての情報ページ「どんな病気なの？」</u> で追加、修正して欲しいこと
3	<u>効用値測定ツール「効用値を求めてみよう」</u> で追加、修正して欲しいこと
5	意思決定支援ツール全体で追加、修正して欲しいこと
6	その他の感想

## 2. 研究参加者の背景情報 (医師本人に記入を依頼)

あなたご自身のことについてお伺いします。以下の項目について、あてはまるものに○をつけて下さい。回答したくない質問がありましたら、お答え頂かなくても結構です。回答が終わりましたら、この用紙を封筒に入れて、インタビュー担当者にお渡し下さい。

1	性別	1) 男	2) 女
2	年齢		歳

ご協力ありがとうございました。

## 治療法決定のための支援ツール作成

京都大学大学院医学研究科・脳病態生理学講座・脳神経外科・助教授  
野崎和彦

### 研究要旨

治療法の決定における Shared Decision Making の重要性が指摘されているが、Shared Decision Making を行うためには、医師と患者が意思決定に必要な情報を共有する必要がある。本研究では、未破裂脳動脈瘤の病態、診断、治療に関するリスク情報を患者にわかりやすく説明する映像媒体（DVD）の作成を行い、本 DVD の有効性に関する臨床研究を行った。

### A. 研究目的

クモ膜下出血の年間発症率は人口 10 万人当たりおよそ 20 人近くとされ、諸外国に比べ高い傾向にある。またクモ膜下出血による死亡は人口 10 万人当たり 11.6 人（男 9.0：女 14.0）（平成 13 年度厚生労働省人口動態統計）で、脳卒中死亡全体の約 10%を占め、横ばいか漸増傾向にある。クモ膜下出血は壮年期の働き盛りの年代に好発し、死亡や重篤な機能障害の原因となる重要な疾患である。クモ膜下出血の主要原因である脳動脈瘤は脳ドック普及により成人健常者の 5%前後に発見される。クモ膜下出血が重篤であるがゆえ、従来より未破裂脳動脈瘤が発見された場合は積極的な外科治療が行われる傾向にある。一方、未破裂脳動脈瘤の自然史に関する研究については十分なエビデンスはなく、一部の prospective study によると、未破裂脳動脈瘤の年間出血率は約 1-2%程度と報告されていた。1998 年の欧米の ISUIA グループによる retrospective study (N Eng J

Med 1998) から「1 cm 以下では年間破裂率 0.05%」と報告されたが、症例の背景に問題があり、そのまま未破裂脳動脈瘤の破裂率に当てはめることはできない。その後、同グループによる prospective study の結果が発表され、7mm 未満、7-12mm の内頸／前大脳／中大脳動脈瘤では 5 年間でそれぞれ 0%、2.6%、後交通／後頭蓋窩動脈瘤では 5 年間でそれぞれ 2.5%、14.5%と報告された (Lancet 2003)。このように未破裂脳動脈瘤の破裂率を正確に予測することは困難である。また、未破裂脳動脈瘤の治療として、1) 経過観察、2) 開頭術（クリッピング）、3) 血管内外科治療（コイル塞栓術）の 3つの選択肢があるが、欧州を中心に行われた破裂動脈瘤に対する介入研究“ISAT”では、血管内外科治療の成績が開頭術を上回ったという結果も公表されている (Lancet 2005)。しかし、欧米での治療成績をそのまま日本にあてはめることはできず、また治療に伴うリスクについても各治療施設によりばらつきがあり、脳動脈瘤の治療については、各施設の方針と技量に基



づき行われているのが現状である。しかし、これらは、治療者の視点のみで検討されたものであり、患者の価値観や QOL 向上という最終目標に照らせば、今後、少なくとも脳動脈瘤に関する適切な情報の提供と、医師と患者との適正なコミュニケーションに基づいた治療法決定 (Shared Decision Making) が行われる必要がある。

本研究は、医師と患者が意思決定に必要な情報を共有するための Decision Support Tool の作成を目的とする。Decision Support Tool として、説明文やリーフレットなどの紙媒体では情報量に限界があり、本分担研究では DVD を用いた画像媒体を作成した。

## B. 研究方法

DVD 全体の形式として、小説形式のノベル型と各項目を配置するライブラリ型があるが、今回は、両者を合わせた形とした。すなわち、脳ドックで未破裂脳動脈瘤が発見された中年男性を設定し、医師から説明を受ける構成とし、ここに脳動脈瘤の説明、治療法の説明、症例集を挿入した。全体構成として、1) 未破裂脳動脈瘤の病態、疫学、2) 未破裂脳動脈瘤の治療法、3) 未破裂脳動脈瘤の治療方針の決定、4) 症例提示、の4つとし、患者本人、妻、医師を登場人物とした。脳動脈瘤情報コンテンツとして、脳動脈瘤の破裂率や治療に伴う合併症、治療に伴う費用や入院日数などについては、欧米からの主要データとして ISUIA グループの報告 (Lancet 362:103-110, 2003)、日本からの主要データとして 2004 年の日本脳神経外科学会での報告などを用いた。また、未破裂脳動脈瘤に関する治療方針として「脳ドックのガイドライン 2003」を参考とした。また、治療方針に関する記載としては、各施設の判断を尊重することとし、またセカンドオピニオンを推奨することとした。制作は NHK ソフトウェア (株)

に依頼した。

作成した DVD を京都大学関連施設、東京大学関連施設、札幌医科大学関連施設の医師および医療従事者に視聴していただき、修正点、問題点などをアンケート調査により集積した。

以上により作成した DVD の有効性を検討するために、一定条件を満たす対象患者に視聴していただき、視聴前後と3ヶ月後に質問紙調査を行い、Decision Support Tool の有効性について検討した (分担研究「診断を受けた患者の心理的負担と効果的カウンセリングの提供」分担研究者 白川太郎)。

## C. 研究結果

### ・ DVD 作成

DVD コンテンツとして、未破裂脳動脈瘤の疫学、病態、破裂率、破裂後の病態、各治療法の方法、有効性、危険性、合併症、費用、入院日数、経過観察中の注意などを組み入れた。また、治療方針決定のために考慮すべき因子、実際の症例提示を加え、セカンドオピニオンの推奨についても言及した (資料1)。全体の長さは18分であるが、外来で患者が見やすいように項目ごとに直接視聴できるようにした。

### ・ 医師、医療従事者による視聴

京都大学、東京大学、札幌医科大学の脳神経外科関連施設の医師および医療従事者に視聴していただき、修正点、問題点などをアンケート調査により集積した。105人から回答を得た。DVD を視聴する対象患者として適切な患者としては、62%から「未治療で初診の患者」、23%から「未治療で通院中の患者」が適当とされた。DVD 内容に対する患者が理解可能かどうかについては、12%から「DVD のみで十分理解可能」、83%から「おおむね理解可能」との回答を得た。また、患者への視聴のタイミングとして適当な時間は、「診察前」が49%、「診察中」

が30%であった。

- ・ 患者への視聴と有効性の検討  
(分担研究「診断を受けた患者の心理的負担と効果的カウンセリングの提供」分担研究者 白川太郎 参照)

京都大学の医の倫理委員会の承認を受け、京都大学脳神経外科の関連施設で研究協力を承諾していただいた施設(20施設:各施設5名の患者に協力依頼)へ質問調査票等の必要書類の送付を行った。研究調査は2006年2月末で終了した。

2006年3月21日現在40人分のデータが返送された。このうち同意の得られた39名に3ヶ月後の質問調査票を送付する予定である。

視聴については特に問題となる事象は発生しなかった。集まったデータでは、「映像を使った治療方法の説明はあった方がいい」と答えた人は100%、「DVDが治療方針を決めるのに役に立った」と答えた人は67%であった。脳動脈瘤に関する問題を行っていただいた結果、未破裂脳動脈瘤の知識については、視聴後の知識が有意に向上していた( $p < 0.01$ )。

#### D. 考察

本研究における対象疾患である無症候性未破裂脳動脈瘤は、現在行われている脳ドックでは受診者の数%に発見されている。無症候性未破裂脳動脈瘤の患者の場合、治療方法の選択までのプロセスは、他の疾患に比べより難しいことが考えられる。それは、未破裂脳動脈瘤の診断後の破裂率や治療後の合併症の発生率が確率的に説明されること、未破裂脳動脈瘤の破裂が死亡や重篤な機能障害の原因になるということが心理的負担を大きくしていることなどの理由による。また、未破裂脳動脈瘤についての治療方法の選択や治療成績などは施設間において差があるが、患者に対して正確な知識や

情報を適切に提供する方法はなく、各担当医師による説明に委ねられていたため、説明のしかたにより治療方針が大きく変わり、場合により不適切な治療が行われる危険性がある。

今回作成した未破裂脳動脈瘤に関する画像媒体(DVD)によるDecision Support Tool「未破裂脳動脈瘤の診断と治療について」を使用することで、未破裂脳動脈瘤についてのゆがみのない一般的な知識と選択しうる治療法の現状につき、医師と患者が共有することができる。実際に、中間解析ではあるが患者側の知識は向上していると考えられる。本DVDは、各脳動脈瘤の治療方針を細かく決定づけるものではないため、意思決定に関する態度を変化させるかどうかは不明である。なお、最終的な統計解析は3ヶ月後の質問調査が終了した後となる。

今回作成したDVDでは、DVDという画像媒体の有効性の検討、今後のDVDの更新、改善のための基礎資料を得ることを目的としている。今後は、本研究において進行中であるUCASのデータを取り入れ、日本独自のデータによる日本人のためのDecision Support Toolを作成し、未破裂脳動脈瘤に関する正しい知識の習得、選択治療方法に対する満足度の向上、Shared Decision Makingの促進を目的として、全国的なDVDの普及を目指す予定である。

#### E. 結論

未破裂脳動脈瘤を有する患者にとり、その病態及び治療方針についての正しい知識が得られ、患者が治療方針の決定を行う過程でshared decision makingするために、画像媒体を用いた情報提供を受けることは、患者にとって有用である。本研究によって得られた知見を用いてより有用なDVDを作成することは医療上重要であると考えられる。

## F. 文献

- 1) ISUIA Investigators: Unruptured intracranial aneurysms- Risk of rupture and risks of surgical intervention. N Eng J Med 339:1725-1733, 1998
- 2) ISUIA Investigators: Unruptured intracranial aneurysms: natural history, clinical outcome, and risks of surgical and endovascular treatment. Lancet 362:103-110, 2003
- 3) International subarachnoid aneurysm trial (ISAT) of neurosurgical clipping versus endovascular coiling in 2143 patients with ruptured intracranial aneurysms: a randomized comparison of effects on survival, dependency, seizures, rebleeding, subgroups, and aneurysm occlusion. Lancet 366:809-817, 2005
- 4) 日本脳ドック学会：脳ドックのガイドライン 2003
- 5) 酒井未知、福原俊一、中山健夫、青木則明、野崎和彦、橋本信夫：未破裂脳動脈瘤の意思決定支援に関する研究 日本脳卒中学会機関誌 28:200, 2006
- 6) 野崎和彦、赤松利恵、酒井未知、福原俊一、中山健夫、橋本信夫：未破裂脳動脈瘤の治療方針決定支援ツールの作成 日本脳卒中学会機関誌 28:148, 2006

## G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

# 未破裂脳動脈瘤の治療方針

【完成稿】

## 1：未破裂脳動脈瘤の発見～脳ドックと医師の説明～

#	画面説明	台詞 & ナレーション
◆メインタイトル：未破裂脳動脈瘤の治療方針		
サブタイトル：未破裂脳動脈瘤の発見		
1	【一般家庭：町並み～食卓】 ・主人公：伊藤さんが何やら紙を見ながら家族と話しをしている	〈ナレーション（以下、N）〉この方は伊藤さん、50才（男性）。
2	【診断書】 ・『前交通動脈動脈瘤 5mm』の文字に下線	〈N〉伊藤さん夫婦が見ているのは先日受けた脳ドックの結果。そこには『前交通動脈動脈瘤、5mm』と書かれていました。
3	【一般家庭～パソコン検索画面】 ・『脳動脈瘤』『くも膜下出血』『開頭術』『血管内治療』など	〈N〉不安になった伊藤さんは、明日の脳神経外科の受診を前に『脳動脈瘤』について調べているのです。
1-2：診断結果についての説明		
4	【診察室（翌日）】 ・診察室で説明を聞く伊藤さんに妻も同席している	〈医師〉伊藤さんですね。今日は先日受けられた脳ドックの結果についてご説明させていただきます。
5	【MRA画像】 ・脳動脈瘤が明確に示される	〈医師〉こちらの写真を見ていただきたいのですが、この血管の膨らみがお解かりになりますか。これが『未破裂脳動脈瘤』です。